

平成26年9月2日

青森市政記者会 様

青森市健康福祉部  
青森市保健所長

## デング熱の国内感染症例について

平成26年8月29日（金）青森市内の医療機関から当保健所に、代々木公園で蚊に刺された患者が発熱しており、デング熱の可能性があるとの連絡がありました。青森県環境保健センターを通じ、東京都の国立感染症研究所で検査を行ったところ、デング熱に感染していることが確認されました。患者の概要等について以下の通りお知らせします。

## 記

## 1. 患者について

(1) 年齢等 市内在住 20代男性

(2) 海外旅行歴 なし

(3) 発症・受診状況

8月25日 発症 39度台の発熱。

26日 市内の医療機関を受診。

27日から28日 39度台の発熱が継続。

29日 朝40度の発熱。再度市内の医療機関を受診。

医療機関より、患者が8月中に代々木公園を訪れており、デング熱の可能性があるとの情報が当保健所によせられた。

(4) 症状

発熱・倦怠感・関節痛・発疹

現在快方に向かっている。

(5) 蚊の刺咬歴

8月19日 東京都を旅行中、都立代々木公園を訪れた際に蚊に刺された。

(6) 検査・診断

9月2日 国立感染症研究所の検査の結果、デング熱に感染していることが確認された。

## 2. 推定感染地域

調査の結果、

- ・ 本件患者が発症前に都立代々木公園を訪れ、蚊に刺されたことが確認されていること。
- ・ 同じ公園内で蚊に刺された複数の方がデング熱に感染していること。
- ・ 本件患者は発症前の海外渡航歴はないこと。

などから、都立代々木公園でデングウイルスを保有している蚊に刺されて感染した可能性が疑われています。

### 3. 市民の皆様へ

すでに都立代々木公園周辺で蚊に刺され、発熱等の症状がある場合には、早めに受診して医師にその旨をお伝えください。

### 4. 市民からの相談受付

青森市保健所保健予防課 感染症対策チーム      TEL 017-765-5282

#### 【参考】

#### デング熱について

##### (1) 発生状況及び感染経路

蚊が媒介するデングウイルスによる疾患で主に、アジア、中南米、アフリカなど熱帯・亜熱帯地域に広くみられます。人→蚊→人という経路で、蚊を媒介して感染しますが、人から人へ感染することはありません。デングウイルスを媒介する能力を持つヒトスジシマカは青森県以南の日本のほとんどで確認されています。

##### (2) 潜伏期間及び症状

- ・潜伏期間は2～15日（多くは3～7日）
- ・突然の高熱、全身の筋肉痛、骨関節痛、全身倦怠感、発疹等が現れます。

通常は1週間程度で回復しますが、ごくまれに重症化してショック症状や出血傾向を呈することがあります。

##### (3) 治療法

特異的な治療法はなく、対症療法が主体となります。

現在のところ有効な抗ウイルス薬はありません。

##### (4) 予防法

- ・屋外の作業等の際には、長袖、長ズボンを着用し、素足でのサンダル履きは避ける。
- ・虫除け剤の使用等によって、蚊に刺されないように注意する。
- ・室内の蚊の駆除を心がける
- ・蚊が発生しやすい環境（タイヤにたまった水・植木鉢の受け皿や空き缶に水がたまった状態など）をつくらないようにする。

#### [問合せ先]

青森市健康福祉部 青森市保健所 保健予防課

電話：017-765-5280